

2011 年度前期卒業生・修了生のみなさんへ

本日、学士の学位をえた12名の学部卒業生の皆さん、博士の学位をえた3名の博士課程修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。あわせてご家族あるいは関係者の皆さまにも、心からお慶びを申し上げます。

近年本学は、前期後期の2学期制を実施しておりますから、当然前期段階で卒業・修了要件に達することがあるわけであります。また、大学での学習も多様化し、9月に卒業する学生数は全国的に年々増える傾向にあります。その意味で9月卒業は、特別なこと、追加的なことではなく、当然の制度であります。昨年引き続き2回目となる今回の前期卒業式は、残念ながら台風の接近により中止となりましたが、本学でも、3月の卒業式と同様、節目となる大学の定例の行事の一つとなりました。

さて、本年3月の卒業式は、東日本大震災の直後でありました。そして本日の卒業式は、先日の台風12号による紀伊半島豪雨大災害の直後に迎えております。この被害は東日本大震災と比べればエリア的には限定されておりますが、被災地域や被災者にとっては、東日本大震災の被害と同様であります。被災された皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

和歌山大学は、「地域を支え、地域に支えられる大学」として、地域の苦悩や課題を共有し、その解決に責任ある参加をすることを大学運営の基本としてまいりました。すでに被災地域には、学生、教職員がボランティアとして、専門家として入っておりますが、今すぐ必要な短期的な支援はもちろん、今後長期にわたるであろう復興、再建につきまして、和歌山大学の総力を挙げて取り組むことを、ここに表明したいと思います。

3・11大震災や、このたびの豪雨による大災害に直面し、我々は、この地球という自然の中で、いかにこの自然と対峙共存していくのかという基本的な問題について、改めて深く考える必要があることを自覚させられています。皆さん方は、通常よりも少し長く在籍されましたが、その時間は、皆さんそれぞれに意味ある経験の時間であったことと思います。いろいろな経験の中で、

学業的な学びだけではなく、いかに生きることが自分にとって意味のあることなのかを考えもされたのではないかと思います。そして、時間の貴重さを痛切に感じられたことと思います。今回このような自然による脅威と危機に直面し、私たちは、迅速な行動も重要であります。じっくりと時間をかけ、あらゆるものを疑い、深く考えぬく態度も重要であることを知りました。早く進むだけがいいことではないのです。

皆さん方は、就職等社会への参加に当たって課題を抱えていることと思いますが、大学での学びを力として、現実と闘い、自らの幸せを実現し、あわせて社会の幸せのために寄与していただきたいと思えます。卒業後も、新たな学び、新たな支えを必要とすることもあるでしょう。和歌山大学は、「生涯、あなたの人生を応援します」とメッセージを発しています。人生の岐路において、あれこれ思い悩んだ時は、是非母校を思い起こし、リターンしてください。全国各地では、同窓会の諸先輩方が、皆さんの人生の応援団として待っていてくださいます。そのことを最後にお伝えし式辞といたします。

2011年9月21日

和歌山大学長

山本健慈